

コミュニケーション学部報 (2016年度)

1. 専任教員

教授

池 宮 正 才
川 井 良 介
川 浦 康 至
駒 橋 恵 子
桜 井 哲 夫
柴 内 康 文
関 沢 英 彦 (学部長)
中 村 嗣 郎
西 垣 通
長谷川 倫 子 (国外研究員)

准教授

南 隆 太
本 橋 哲 也
山 田 晴 通
渡 辺 潤
遠 藤 愛
大 榎 淳
北 村 智
北 山 聡
佐々木 裕 一 (教務主任)
光 岡 寿 郎
ピーター・ロス

専任講師

阿 部 弘 樹
小 山 健 太
松 永 智 子

3. 特任講師

林 剛 大
吉 田 達

4. 非常勤講師

新 井 一 央
井 上 俊 也
エバノフ恵智子
遠 藤 大 輔
大 谷 安 宏
坂 下 裕 明
鈴 木 麻 利 子
草野ハベル清子
曾 根 和 子
高 野 敦 伸
谷 光 生
フローラン・ダバディ
千 葉 悠 志
濱 野 智 史
深 山 直 子
堀 正
ジョン・マクグラス
水 野 裕 子
三 橋 順 子
森 津 太 子

2. 客員教授

中村理恵子
芳賀 啓

5. 学生が選ぶベストティーチャー賞表彰

- ・受賞者
関沢英彦
- ・授賞理由
関沢教授は授業そして「あなたにとってのベ

ストティーチャーは？」という質問で一位となり、ゼミおよび進路指導でも上位を占めた結果、本年度の「ベスト」に選ばれました。発想や企画力を鍛える「アウトプット先行」の講義やゼミが好評で、「何かを生み出した達成感がある」という観点で極めて高く評価されました。

受賞者あいさつを学部ブログ「きょうもトケコミ」(<http://comtku.blogspot.jp/>)に掲載しました。「2016 年度ベストティーチャー賞 vol.1 関沢英彦さん」(2017 年 7 月 3 日)、および第 2 位の柴内教授「2016 年度ベストティーチャー賞 vol.2」(2017 年 7 月 9 日)です。

【参考】 東京経済大学コミュニケーション学部「学生が選ぶベストティーチャー賞」実施要項

2015 年 4 月 1 日 制定

1. 目的

東京経済大学コミュニケーション学部は、以下の目的をはたすため、「東京経済大学コミュニケーション学部ベストティーチャー賞」を設ける。

(1) 教育実践において学生から高い評価を得た学部教員を「ベストティーチャー」として表彰する。

(2) 「ベストティーチャー」の高く評価された点や授業ノウハウを教員間で共有し、教育水準の向上を図る。

2. 賞の英文名称

本賞の英文名称は、Best teacher awarded by students とし、「BETAS」を通称とする。

3. 賞の授与

本賞は、学生アンケートの回答をもとに、以下の点について評価の高い教員を年に 1 回選出、

表彰するものである。

(1) 授業において、卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践した者。

(2) 教育方法の工夫又は改善に取り組み、顕著な教育成果をあげた者。

(3) その他、ベストティーチャー賞にふさわしいと認められる者。

受賞対象者はコミュニケーション学部教員(コミュニケーション学部生が履修する授業担当者)とし、非常勤教員を含む。

受賞者は原則、1 名とする。

4. 選考手続き

(1) 学生アンケートの実施は、ベストティーチャー選考委員会が行う。

(2) 実施手続きは上記選考委員会が別途定める。

(3) アンケート結果をもとに上記選考委員会が受賞者を決定する。

5. 選考委員会の構成

(1) 教務主任

(2) 学部専任教員(若干名)

(3) その他、学部長が指名する者
委員長は委員の互選とする。

任期は 1 年とする。

6. 表彰

受賞者には表彰状を授与する。

7. 選考結果

大学のウェブサイトを受賞教員名、授賞理由を公表する。

6. 卒業制作・卒業論文表彰

・最優秀賞(1 点)

中澤飛翔「まちづくりを目的としたサイクルイベントに関する考察—まえばし赤城山ヒルクライムとツール・ド・東北の事例から—」〈論

文)

・優秀賞 (11 点)

苅安美咲「死刑制度と命の重さ」〈論文〉

百武若奈「若者の音楽離れは本当?—東経大生の音楽ライフ」〈論文〉

駒原彩美「日本で K-POP 人気が続く理由—K-POP ブームはブームを超え一つのジャンルへ—」〈論文〉

濱田利紗・中川実紗子「東西くらべるとらべる」〈制作〉

堀村雪乃「オタク世代と消費—アニメの歴史から見るオタク—」〈論文〉

神宮寺稔「こうして「悪い本」が生まれる—元少年 A『絶歌』に関する公立図書館の対応をめぐって—」〈論文〉

野崎友梨花「交流分析 人生の物語を描く「人生脚本」」〈制作〉

藤森咲季「商店街の衰退と活性化—長野県諏訪市を事例に—」〈論文〉

星野洸太「人はなぜ虫を嫌うのか」〈論文〉

長谷川健二「曲作りという行為—制作楽曲名『ピープル』—」〈制作〉

中島啓太「今の若い世代について」〈論文〉